

審査会会長からのコメント

今回も多数の申請があり、とりわけ「ひよこ」申請に増加が見られました。これは東大阪市におけるまちづくり活動団体の持続的発展ぶりを示すものであり、私ども審査会としても大変喜ばしいことと考えています。

しかもその内容も非常に多彩であり、東大阪市における地域まちづくり活動の層の厚さ、幅の広さを感じさせます。

他方で、今回もトライ申請が出ませんでした。トライ申請が期待される活動もあったものの、行政サイドの状況の変化によって慎重な対応が余儀なくされたようでした。トライはハード（施設・設備）整備を伴う事業が対象であるため、慎重な計画が求められます。しかし、このトライ助成こそ他市にはあまり見られない当助成の特徴でもあるので、奮って挑戦していただきたいと思います。

スタートアップ支援である「たまご」も相変わらず活発でした。しかし、子育てなどの分野では、毎年同じような事業を始めようとする小さなグループが見られます。自分たちの課題を自分たちで解決しようとすることは極めて大切なことです。同じ悩みを抱える者どうしで助け合う活動も極めて大切なことです。しかし、少し探せば意外に近くに同じ趣旨の活動をすでに行っているグループや団体があるかもしれません。そうした所に参加して活動するという選択肢も検討してみるのも大切です。

同時に自分たちの活動をよりオープンにして、新しいメンバーを受け入れ、やがて世代交代していく心づもりもしておくことも必要です。せっかく立ち上げたグループや団体が、そしてそこで培われた知恵やネットワークが、最初の立ち上げメンバーが当事者でなくなったら自然消滅していくというのは、いかにももったいないものです。

熱心であればあるほど、少数精鋭的なグループになってしまいます。そうした少数精鋭のグループの良い面もあるし、それが望ましい場合もありますが、人はそれぞれたどってきた人生も違うし、価値観もさまざまです。そうした多様性をお互いが認め合う社会・まちが、人の住みやすい、そして活気のある社会・まちなのではないでしょうか。

福祉関係の活動はもちろんのこと、市街地の緑地を守る活動、市街地に緑地を創りだそうという活動、グリコのような「おまけ」の文化を発信しようという活動、集合住宅で人びとが集うカフェをやる活動、商店街の活性化を仕掛ける学生グループの活動などなど。実に多彩なまちづくり活動の一端が見られました。

こうしたさまざまな活動を見て、他人ごとでなく、自分ごととして何かを始める人びとが増えていくことを期待しています。